

(様式第7号)

地域の課題解決のための活動報告

記入日：令和 4年 6月20日

作成者： 三上 健二郎

地域の課題解決のために行った活動を1つ選び、できるだけ具体的数値を挙げて報告してください。すべての項目に、一般の人に伝わりやすいようにご記入ください。

*この報告はあしや市民活動センターのホームページに掲載されます。

(登録を公開している団体のみ)

団体名	
一般社団法人 芦屋写真協会	
事業名	日時(期間)、場所
芦屋写真展 2020	2021年6月2日～6日 原田の森ギャラリー2階大展示室
内容(実績) *実施したことを具体的に	受益者数
2020年6月に開催予定であった公募展がコロナ禍のため延期となり、2021年に万全の感染症対策を施し開催にこぎつけた。全国から公募作品を募り、グランプリをはじめ各賞を決定。入賞20作品はパリのギャラリーダゲールに展示された。同時に会場には学生作品として甲南大学・日本写真映像専門学校、フランス・ルーマニア・ポーランドの友好団体の写真も展示した。	応募者 1122 (152)人
	参加者数
	来場者数 (1122)人
成果(社会へのインパクト) *どのような良い変化を社会にもたらしたかを具体的に	
昭和初期の芦屋では中山岩太・ハナヤ勘兵衛などの写真家たちによる「芦屋カメラクラブ」が創設され、日本の写真芸術の先駆けとなりました。その伝統を受け継ぎ、2011年6月に設立された「芦屋写真協会」が芦屋を拠点都市として写真文化の発展に寄与し、写真表現技術の向上を目的として国際色豊かでグローバルな活動の中心として開催しました。	
今後の展望(どのように継続、発展するか)	
2014年に初開催した芦屋写真展も会を重ね応募者数、応募者点数も増えてきました。入賞作品をパリのギャラリーダゲールに展示し、グランプリ受賞者の副賞はパリ往復航空券とし、毎回、入賞者のパリ訪問を実施いたしておりました。2020年はコロナ禍のため開催を延期、2021年は開催できましたが、パリ訪問は実施できませんでした。本年もパリ訪問は困難だと思われませんが、コロナ禍が収束しましたら、パリ訪問を再開し、国際交流の輪を広げていきたいと考えています。	